

輸出事業計画

※申請者名：大分県農業協同組合、品目：かんきつ

1. 輸出における現状と課題

当組合の産地では担い手不足による栽培面積の減少等が進んでおり、生産振興や新たな担い手の確保・育成が求められている。これらを実現するためには、安定した価格での取引や販路拡大に取り組む必要があり、その一環で輸出拡大を進めている。

本年では生産量で全国上位に位置するハウスみかんや「おおいた早生」などの温州みかん、美娘、サンセーブなどの中晩柑に、日本一の生産量を誇るカボスもあることから、多品種を長期的に取引することで輸出拡大を図っていく。品種リレーによる周年出荷体制の確立や、他の品目と連携して海外小売店での棚の確保に取り組む。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産面】

- ・日本一早い時期に出荷できるハウスみかん、オリジナル品種の美娘のほか、デコポンなど品種のリレー出荷により輸出期間の長期化を図る。
- ・台湾の残留農薬基準を満たす生産を実施し、ハウスみかんのほか、美娘やデコポン、豊王を輸出できるように取り組む。

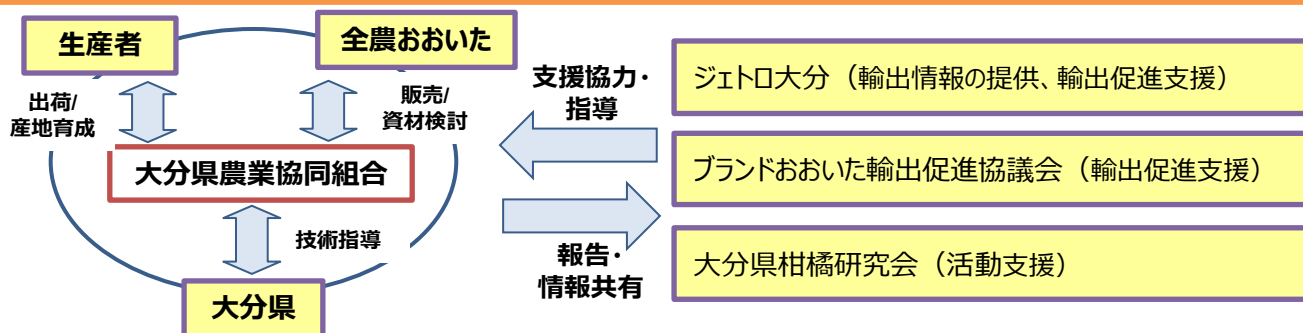
【流通面】

- ・コールドチェーンを確立する観点から、現状の船便に加えて航空便での輸送状況の調査を行い課題をする。その上で除湿剤などの資材の活用を検証して、最適な輸送方法を確立する。
- ・ハウスみかんのロス率を軽減するために、出荷時に温度計を同梱し、温度変化を確認する輸送テストを実施する。

【販売面】

- ・中秋節や春節を含めた周年出荷で利用できる現地ニーズに合った化粧箱の開発を行う。早い時期に出荷できるハウスみかんのほか、デコポン、美娘などの中晩柑、香酸柑橘（カボス）など差別化できる品種を提案し、輸出・販売期間の長期化、取引量の拡大を図る。
- ・台湾において、柑橘、梨及びシャインマスカットをセットで提案し、混載による輸送費の低減を実証する輸送試験を実施する。また、贈答需要期には「大分県産フェア」と銘打ったセット販売を実施することで、販促効果を高める。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（令和5年度）	目標（令和8年度）
輸出額（千円）	39,696	60,000
輸出量（t）	42	65
輸出先国	香港・シンガポール、マレーシア、EU	香港・台湾・シンガポール、ベトナム